

善光寺

開創三十周年
育英会十五周年

記念式典・祝賀会

幅広い活動称え六百人が参集

「宗祖を通して釈尊に帰れ」を宗教的原点として昭和四十四年、横浜市日野公園墓地の入り口に成寿山善光寺（黒田武志住職）が開創されてから三十周年、また横浜善光寺留学僧育英会の設立十五周年を記念する式典と祝賀会が五月二十八日午後二時から、横浜市磯子区の横浜プリンスホテルで来賓・檀信徒ら六百人が参集して盛大に開催された。ゼロから出発し、育英事

業を通じて世界十八カ国（一地域）・延べ九十三人の人材を海外へ留学させ、諸外国からも受け入れるなど、世界平和と人類福祉への願いに貫かれた活躍で国際的にも評価を得ている善光寺の寺檀一体の寺院づくりには数々の賛辞が寄せられた。

衆生のために身を削り奉仕

本寺の栃木県・光真寺住職黒田俊雄老師の導師により本尊上供が営まれた後、黒田住職は「三

十年を振り返り、光陰は矢の如しの思いに尽きる。三十にして立つというが、多くの方々助けを得て、やっとスタートラインに着いたという心境だ。人生の三分の二は過ぎた。還暦を過ぎて、やっと精進の意味を知った」と感謝の言葉を述べた。さらに「二十世紀は物質にとらわれた追いつき追い越せの世紀ではなかったか。二十一世紀は、己れ未だ度らざる先に一切衆生を度さんと菩提心を発するべき世紀だ。多くの人のために身を削って尽くしたい。そのことを固く約束する」と発願利生の思いを吐露した。

前駒澤大学学長・奈良康明先生、前最高裁判所判事・園部逸夫先生、孝道教団統理・岡野正貫先生がそれぞれ祝辞を述べられた。

奈良先生は「黒田方丈は社会への貢献、宗門に役立ちたいとの願いを持ち、それを実行していく企画性と実行力をもっておられる。仏教の非社会性が批判的に言われるが、黒田方丈は常

に利他を考え実践している。すでに仏教の国際化の時代は過ぎて世界化が言われている。善光寺育英会がここまで発展してくると、世界化の意識をはっきり認めなければならぬ」と黒田住職の活躍を高く評価された。

この後、善光寺開基家の村岡守見子氏と檀信徒代表の富永豊重氏に大本山總持寺の板橋興宗貫首から、また善光寺に奉納された十八羅漢図の制作者である中国上海美術出版社の画家・周穎先生に黒田住職から、それぞれ感謝状が贈られた。

三十周年の実績・経過報告を育英会理事の宮本延雄先生（鶴見大学事務局長）、育英会十五周年の実績・経過報告を第五回育英生の引田弘道先生（愛知学院大学教授）が行なった。宮本先生は「三十年を契機に黒田老師は初心を忘れることなく、生かされている生命を仏法のため、人のために使い、一滴残らず使い切って一生を

捧げたいという抱負と信念をもっておられる」と信念に生きる黒田住職の実践行を讃えた。

祝賀会では駒沢女子大学学長・東隆眞先生、

大雄山最乗寺山主・石附周行老師、ニューヨーク州立大学教授・伊藤博先生が祝辞を述べ、善光寺を取りまく各界の有縁者により鏡開きが行なわれた。曹洞宗参議の東京・吉祥寺住職岩本昭典老師が「宗風独格貫人生／功德善光照育瑛／更約将来成寿処／応見福衆至昌栄」の祝偈を捧げて乾杯となり、沖繩の踊りや奇術・歌など多彩な催しと、善光寺の寺族や婦人部、檀信徒、来賓が一つになつての温かい交流の場面が続いた。



祝 辞

曹洞宗 管長
大本山總持寺貫首
板橋 興宗 猊下

黒田武志老師は、栃木県大田原の光真寺のお師匠さまのもとから独立し、この横浜の地に「善光寺」を開創されてから満三十年になります。

また、佛道を学ぶ内外の学徒に育英資金を提供し、将来ある人材を数多く育成されてきました。その「留学僧育英会」を設立されて十五周年になるとのことです。心よりお慶び申し上げます。

黒田老師一代で、これだけの大寺院に築き上げ、しかも育英の大事業を成し遂げられましたことは、現代の宗門人としては稀有のことと驚嘆しております。

ここに至るまでの老師の御努力と御苦勞は私たちの想像を越えるものがあつたことと思いま

す。そこに一貫しているのは老師の熱烈なる菩提心であり、一途な誓願心であると敬服しております。

また、檀信徒の皆様が住職の願心を汲みとり、物心両面で多大な御協力があつたればこそと、その御信心の深さに頭の下る思いがいたします。

老師は、年齢的にも、これからが円熟期にあります。日本国内はもちろん、洋の東西を問わず自由闊達な法力を展開されますことを期待申し上げます。

ここに、ますます御法体健やかに御精進のほどを願ひ、さらに寺門の興隆を祈念して祝辞といたします。

